

2021年2月7日(日)朝10:10

降誕節第5、自由交歓会等

2月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：神に罪赦された恵み(35～)

聖書：マタイ 18章21～35節

<口語訳>

新約聖書29～30頁

マタイ 18章21～35節

<新共同訳>

新約聖書34～35頁

マタイ 18章21～35節

<新改訳第3版>

新約聖書37～ 頁

マタイ 18章21～35節

<塚本訳>

新約聖書123～124頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。
- ◇本日は、**マタイ18:21～35節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**神に罪赦された恵み(35～)**」は、「**御子イエス・キリスト様**」が、膨大な借金の免除を下さることで。
- ⇒譬えの中では、一万タラント[三百億円]の借りのある家来が、借りを免除されますが、彼から百デナリ[五万円]を借りているひとりの同僚の首を絞め、借金を返すまで牢獄に閉じ込めるため、裁判官に引き渡します。
- ⇒その家来のしたことを主人は、聴き、家来の借金を赦さず、牢獄に閉じ込めるのです。
- ⇒主は、弟子たちに、7の70倍赦すことをお求めでした。
- ⇒それは、主の恵みなしにできません。

本論；

◇本日、**マタイ書18章21～35節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ18章21～35節**；**使徒マタイ**は、「**神に罪赦された恵み**(35～)」との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を示しています。

◇**マタイ18:21～35節**；**塚本訳**◆

不埒な家来の譬<21～35>

21 その時ペテロが進み寄ってたずねた、「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したとき、何度赦してやらねばなりませんか。七度まででしょうか。」

22 イエスがこたえられた、「いや、あなたに言う、七度までどころか、七十七度まで！

23 だから天の国は、王が家来たちとの貸し借りを清算しようとするのに似ている。

24 清算を始めると、(王に対し)一万タラント[三百億円]の借りのある家来がつれて来られた。

25 返すことができないので、主人は(その家来に、)自分も妻も子も持ち物も全部売って返

すように命じた。

- 26 家来はひれ伏して、しきりに願った、『しばらく待ってください。全部お返ししますから。』
- 27 そこで主人は気の毒に思って、身柄をゆるした上、借金にまで棒を引いてやった。
- 28 ところがその家来は出ていって、自分に百デナリ[五万円]を借りているひとりの同僚に出合うと、これをつかまえ、喉頸をしめて、『借りているものを返せ』と言った。
- 29 同僚はひれ伏して、『ちょっと待ってくれ。返すから』と頼んだ。
- 30 しかし承知せず、(裁判官につれて)行って、負債を返すまで牢に入れた。
- 31 その人の同僚たちはこの出来事を見て非常に悲しみ、行って、出来事の一部始終を主人に報告した。
- 32 すると主人はその家来を呼び出して言う、『不埒な家来、あなたが頼んだから、わたしはあの負債に全部、棒を引いてやったのだ。』
- 33 だからあなたもわたしに情をかけてもらったように、同僚に情をかけてやるべきではなかったのか。』

34 そこで主人は怒って、負債を全部返すまでその男を獄吏に引き渡した、(いう話。)

35 わたしの天の父上も、もしあなた達ひとりびとりが心から兄弟を赦さないならば、同じようにあなた達になさるであろう。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ18:21～22節**；「その時ペテロが進み寄ってたずねた、「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したとき、何度赦してやらねばなりませんか。七度まででしょうか。」、「イエスがこたえられた、「いや、あなたに言う、七度までどころか、七十七度まで！」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「弟子たちの質問」に答え、「罪の赦し」は、「七度までどころか、七十七度まで！」と、「お答え」になったのです。

⇒7は、ユダヤでは、完全数で、ラビたちは、3度の赦しを限度と教えていたのですが、主は、ルカ17:4で、7度の赦しを示しおられ、ペテロは、それを思い出して、「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したとき、何度赦してやらねばなりませんか。七度まででしょうか。」と、主に尋ねたのです。

◇**マタイ18:23～35節** ;「だから天の国は、王が家来たちとの貸し借りを清算しようとするのに似ている」、「清算を始めると、(王に対し)一万タラント[三百億円]の借りのある家来がつれて来られた」、「返すことができないので、主人は(その家来に、)自分も妻も子も持ち物も全部売って返すように命じた」、「家来はひれ伏して、しきりに願った、『しばらく待ってください。全部お返ししますから。』」、「そこで主人は気の毒に思って、身柄をゆるした上、借金にまで棒を引いてやった」、「ところがその家来は出ていって、自分に百デナリ[五万円]を借りているひとりの同僚に出会うと、これをつかまえ、喉頸をしめて、『借りているものを返せ』と言った」、「同僚はひれ伏して、『ちょっと待ってくれ。返すから』と頼んだ」、「しかし承知せず、(裁判官につれて)行って、負債を返すまで牢に入れた」、「その人の同僚たちはこの出来事を見て非常に悲しみ、行って、出来事の一部始終を主人に報告した」、「すると主人はその家来を呼び出して言う、『不埒な家来、あなたが頼んだから、わたしは

あの負債に全部、棒を引いてやったのだ」、
「だからあなたもわたしに情をかけてもらった
ように、同僚に情をかけてやるべきではなかつたのか。』」、
「そこで主人は怒って、負債を全部返すまでその男を獄吏に引き渡した、
(いう話。）」、「わたしの天の父上も、もしあなた達ひとりびとりが心から兄弟を赦さないならば、同じようにあなた達になさるであろう」と、
「**御子イエス・キリスト様**」は、「弟子たちの質問」に、答える譬えを語られました。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」の譬えの意図は、罪の赦しには、制限がないということです。

⇒「兄弟がわたしに対して罪を犯したとき」と、ペテロが、自分に対する兄弟仲間の罪の赦しを問うたように、教会では、感情や優劣の問題が生じなすいのです。弟子たちは、先に誰が偉いのかと議論していたのです。

⇒教会では、人間の才覚は、優先されず、霊の賜物が優先されます。

⇒1万タラントは、容易に返済できる額ではなく、家来は、ひれ伏して赦しを求めるほかなかったのです。

⇒主人は、赦しを乞うしもべの姿を見て、「気の毒(腹わたが揺すられて、あわれ)に思って、身柄をゆるした上、借金にまで棒を引いてやった」と、あります。

⇒それなのに、百デナリの仲間の借金が赦せなく、挙句の果ては、主人の借金の棒引きをも失って、牢獄に入れられたのです。

⇒持っている者は、益々与えられ、ある者は、持っている物までも、失うのです。

⇒エペソ2:4～6;【口語訳】

4 しかるに、あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって、

5 罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし——あなたがたの救われたのは、恵みによるのである——

6 キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。

⇒罪を赦せるのは、主のみです。

⇒借金は、**SY師**が仰せのように、委ねられたものの管理の不徹底です。ある人には、礼拝、奉仕、献金等、様々です。

⇒ある時、清算が訪れるのです。

⇒死を必要以上に恐れる必要はありませんが、私たちの生死の鍵をお持ちのお方を畏れ、礼拝、讃美し、聴き従うことを忘れてはなりません。

⇒1ヨハネ4:20～21【口語訳】

20 「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者は、偽り者である。現に見ている兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することはできない。

21 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきである。この戒めを、わたしたちは神から授かっている。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日は、**マタイ18:21～35節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**神に罪赦された恵み**(35～)」は、「**御子イエス・キリスト様**」が、膨大な借金の免除を下さることで。
- ⇒譬えの中では、一万タラント[三百億円]の借りのある家来が、借りを免除されますが、彼から百デナリ[五万円]を借りているひとりの同僚の首を絞め、借金を返すまで牢獄に閉じ込めるため、裁判官に引き渡します。
- ⇒その家来のしたことを主人は、聴き、家来の借金を赦さず、牢獄に閉じ込めるのです。
- ⇒主は、弟子たちに、7の70倍赦すことをお求めでした。

⇒それは、主の恵みなしにできません。

⇒コロサイ3:12～13【口語訳】

12 だから、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙そん、柔和、寛容を身に着けなさい。

13 互に忍びあい、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。

⇒「**神に罪赦された恵み**(35～)」は、「主の弟子たち」が、主から与えられたものですが、主の十字架と死よりの復活をされたことにより、異邦人である私たちも、それに与えているものなのです。